市民講演会のお知らせ

「大地の成り立ちと人々の生活・歴史−男鹿半島・大潟村・豊川油田をジオパークに」

主催：秋田大会実行委員会・ジオパーク支援委員会

日時：９月２０日（土)、１３時～１５時

場所：秋田大学手形キャンパス（教育文化学部３号館大講義室　３−１４５）

趣旨：日本地質学会はジオパーク設立推進委員会を設置し、「地質遺産の保全とその教育・普及・観光への利用が地域の振興と活性化につながる」という理念に基づき、適切に地質遺産が保全・活用されるよう、各方面に働きかけています。本講演会では昨年に引き続き、「ジオパーク」に関連して、男鹿半島−八郎潟地域の多彩な地形・地質・産業遺産の活用可能性を探ります。さらに、「地下なる鉱脈無限の宝庫」と唄われかつて活況を呈していた秋田の鉱山業にも光をあて、日本の近代化を支えた鉱山関連産業の遺産を保存・活用していく活動を紹介し、その意義について広く市民の皆さんと考えていきます。

プログラム

＊男鹿半島の地質遺産・・・白石建雄（秋田大学高額資源学部　教授）

＊ジオパークとは一海外の例を含めて一・・・佃　栄吉（日本地質学会　副会長）

＊新生の大地−八郎潟干拓の歴史−・・・薄井伯征（大潟村干拓博物館）

＊「秋田まるごと地球博物館」ネットワーク構築に向けて・・・佐々木詔雄
（秋田大学産学連携推進機構　客員教授）

＊近代石油産業と豊川油田−「豊川石油の里」構想−・・・佐々木榮一
（エスケイエンジニアリング（株）　地質部長）

＊意見交換

その他、ジオパーク関連では、シンポジウム「地域振興と地質学−ジオパークが開く地域と地質学の未来−」を開催します（次ページ)。

地域振興と地質学

–ジオパークが開く地域と地質学の未来–

■ ポイント ■

・ 地質学をジオパークなどの地域振興に活用するための方策を議論。

・ 地域振興を進める地質学の新分野の展開について議論。

■ 概　要 ■

日本地質学会は、地質学を研究する学会の中心として、地質学をジオパーク等の地域振興に役立てる新たな展開を推し進めています。このシンポジウムでは、ジオパークを中心に、地質学の地域振興への応用について、先導的な応用を行っている方々の例を紹介することによって、地域振興への応用の参考となることを期待しています。また、地域振興に地質学を応用するしくみについての議論も行います。地質学はこれまで鉱産資源開発、建設土木・地質災害に利用されてきましたが、ここに新たな・大きな一歩を踏み出します。

■ プログラム ■

１．日本のジオパーク　―これまでとこれから―　渡辺真人
２．大学の野外巡検からみたジオパーク　高木秀雄
３．山陰・島根ジオパーク実現に向けた島根大学の取り組み　赤坂正秀ほか
４．地方大学とジオパーク―茨城大学におけるこころみ―　天野一男
５．地質情報の活用による商品開発　斎藤　眞ほか
６．秋田まるごと地球博物館ネットワークについて　佐々木詔雄
７．糸魚川ジオパークの地域振興活動と世界ジオパークへの期待　竹之内　耕ほか
８．総合討論

＜参考資料＞

■ 地質学は地域に根ざした学問 ■

地質学は、地球の性質を研究する学問です。各地域の地質を研究し、そこから地球全体に応用できる普遍性を見つけて、利用していく学問です。このため、地質学の持っている情報は地域の情報としてそのまま活用できるのです。

■ 地域振興と地質学　■

地質学は明治の富国強兵に始まった日本の鉱産資源開発に使われてきました。また、構造物の建設の際の情報や、地すべり・地震・火山といった地球がもたらす災害の軽減、温泉開発や

地下水の利用にも地質学は応用されて使われてきました。今、地質学は自然景観が地質に起因していることなどを利用して、ジオパークなどの観光を中心とした地域振興分野への応用の時を迎えているのです。

■ 地域情報を地域の活性化に　■

地質学が地域振興に貢献できるのはジオパークだけではありません。一村一品運動のような、特産品作りにも地質を役立てることができます。地質情報を用いて、ある特定の場所を差別化する、つまり新たな価値を与えることができます。フランスやドイツの高級ワイン（一村一品運動の大成功例といえる）のブランド力の一部は、ブドウ畑の地質情報が担保していることはよく知られています。日本でも、地質を生かした特産品の開発を行えば、簡単には真似できないブランド価値の下がりにくい特産品ができる可能性があるのです。

■ 今後の展開　■

現在ジオパークをめざした活動や、世界遺産に地質の観点を加えるといった活動が各地で始まっています。また、地質の日(5 月 10 日)にはこれらの地域で様々なイベントが行われています。地質情報は各地域における自然「資産」と考えて、地域活性化に使われていきます。

《ジオパーク関連シンポジウムの連絡先》
〒305-0035
茨城県つくば市東 1-1-1　中央第 7
産総研地質情報研究部門
渡辺　真人　（わたなべまひと）
電話：029-861-2471
e-mail: mht.watanabe@aist.go.jp

ジオパークの解説

■ジオパークとは？

ジオパークは科学的に貴重な、あるいは美しい地形や地質を見どころとする「大地の公園」でユネスコが支援する活動です。ジオパークは、三つの柱からなっています。

(1) geoheritage、 つまり地形・地質などの「大地の遺産」を保全する

(2) 教育・普及に活用する

(3) ジオツーリズムを通じて地域の持続可能な発展に活用する

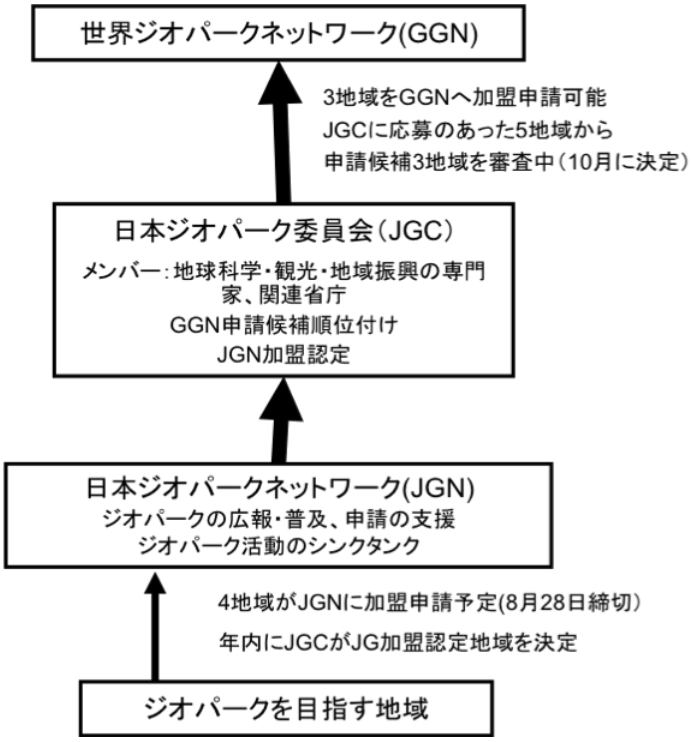
ジオパークでは地質や地形などを見るための自然観察路などが整備され、地元によってガイドマップやガイドブックが出版され、ガイド付きのツアーが行われます。「ジオ(地形・地質)」をテーマとした今までの観光とはひと味違った旅(ジオツーリズム)を求める人のための場所がジオパークです。

2004 年にユネスコの支援で設立された世界ジオパークネットワーク（GGN）が、世界のジオパーク活動の推進と支援を行っており、GGN または各国のジオパークネットワークに加盟しない限り「ジオパーク」と名乗ることはできません。GGN への加盟が、世界遺産で言う登録にあたり、現在 18 ヶ国 57 ヶ所のジオパークが GGN に加盟しています。ジオパークに関しては、日本ジオパーク委員会 website: http://www.gsj.jp/jgc/indexJ.html もご参照ください。

■日本におけるジオパークの現状

現在、専門家と関連省庁からなる「日本ジオパーク委員会(JGC)」と、ジオパークを目指す自治体関係者などの集まりである「日本ジオパーク連絡協議会」が日本のジオパークの活動の中心です。

JGC は日本における GGN への窓口であり、今後設立される日本ジオパークネットワーク（JGN）の認定機関です。この委員会の認定がない限り「ジオパーク」を名乗ることはできません。日本ジオパーク連絡協議会では、ジオパークを目指す地域同士が活発な情報交換を行っています。



すでに 7 月に GGN 加盟申請候補の応募が締め切られ、今年申請可能な 3 つの枠に対

し、5 地域の応募がありました。8 月には JGN 認定候補応募が締め切られ、4 地域から応募があった。年内には、これらの候補の中から最大 9 地域の日本ジオパーク（JGN 加盟ジオパークのこと）と、3 地域の世界ジオパーク候補（GGN 加盟申請中のジオパーク）が生まれることになります。他にも、来年以降の申請に向けて準備を進めている地域が 10 地域近くあります。